

# 北見市における景気動向調査報告書

< 第 IV 四 半 期 >

北 見 商 工 会 議 所

## I. 調 査 要 領

### 1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調 査 時 点 平成 27 年 4 月 14 日

(2) 調査対象期間 平成 27 年 1 月～3 月期実績および平成 27 年 4 月～6 月期見通しについて調査した。

### 2. 調 査 対 象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の 5 業種 150 社を往復ハガキにより調査した。

### 3. 回 収 状 況

業 種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回 答 率
製 造 業	30 社	23 社	76.7%
建 設 業	30 社	28 社	93.3%
卸 売 業	30 社	25 社	83.3%
小 売 業	35 社	23 社	65.7%
サービス業	25 社	16 社	64.0%
合 計	150 社	115 社	76.7%

注) 本調査結果の中で、D・I 値とある記号は、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

## II . 概 況

### 《 全 体 の 動 き 》

平成26年度第IV四半期<平成27年1月～3月>の北見市における業況は、前年同期比で「好転企業」20.0%、「悪化企業」49.6%、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△29.6となっています。

このD・I値を前年同期と比較してみると、前年同期△23.6→今期△29.6と6ポイントの悪化を示しています。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△21.7、建設業D・I値△25.0、卸売業D・I値△20.0、小売業D・I値△39.2、サービス業D・I値△50.0となっており、前年同期と比較すると、サービス業が好転したもののその他の業種では大幅な悪化を示し、昨年の消費税増税前の駆け込み需要と一転した結果となっています。

また、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」20.9%、「悪化企業」43.5%でD・I値△22.6と、前年同期見通し(△18.4)に比べ4.2ポイントの悪化傾向を示し、今期の業況と同様にD・I値はマイナス値であり、依然予断を許さない見通しとなっています。

### 《 業 種 別 の 動 き 》

#### 1) 製 造 業

##### 生 産 高

前年比で「増加企業」21.8%、「減少企業」39.1%、D・I値△17.3と前年同期に比べ17.3ポイントの悪化を示しました。

##### 採 算

前年比で「好転企業」26.1%、「悪化企業」30.4%、D・I値△4.3と前年同期より9.1ポイント悪化を示しました。

##### 来期見通し

業況D・I値△17.3、生産高D・I値△13.1、資金繰りD・I値△8.6と、前年同期に比べ、業況は10ポイント以上の好転、生産高と資金繰りはほぼ横ばいと、今期が厳しかったことが伺える結果を示しています。

#### 2) 建 設 業

##### 完 成 工 事 高

前年比で「増加企業」21.4%、「減少企業」42.9%、D・I値△21.5と、前年同期に比べ21.5ポイントの大幅な悪化の傾向を示しました。

**採 算** 前年比で「好転企業」17.9%、「悪化企業」39.3%  
D・I値△21.4と前年同期に比べ17.6ポイントの悪化  
傾向を示しました。

**来期見通し** 業況D・I値△32.1、完成工事高D・I値△42.9、  
資金繰りD・I値△17.9と、前年同期の見通しと比べ、業  
況・完成工事高が大幅な悪化、資金繰りはほぼ横ばい傾向を示  
しています。

### 3) 卸売業

**売 上 高** 前年比で「増加企業」24.0%「減少企業」56.0%、  
D・I値△32.0と前年同期に比べ76.5ポイントの大幅  
な悪化傾向を示しました。

**採 算** 前年比で「好転企業」12.0%、「悪化企業」56.0%、  
D・I値△44.0と前年同期に比べ58.8ポイントの大幅  
な悪化傾向を示しました。

**来期見通し** 業況D・I値△4.0、売上高D・I値△12.0、資金  
繰りD・I値△24.0と、前年同期に比べ業況と売上高は大  
幅な好転、資金繰りは悪化傾向を示しています。

### 4) 小売業

**売 上 高** 前年比で「増加企業」21.7%「減少企業」65.2%、  
D・I値△43.5と前年同期と比べて26.2ポイントの大  
幅な悪化傾向を示しています。

**採 算** 前年比で「好転企業」18.2%「悪化企業」56.2%、  
D・I値△49.9と前年同期と比べ54.3ポイントの大幅  
な悪化となりました。

**来期見通し** 業況D・I値△21.7、売上高D・I値△21.8、資金  
繰りD・I値△21.8と前年同期と比べ、業況と売上高は  
若干好転、資金繰りは若干悪化傾向を示しています。

### 5) サービス業

**売 上 高** 前年比で「増加企業」6.3%、「減少企業」43.7%、  
D・I値△37.4と前年同期と比べ23.8ポイントの大  
幅な好転傾向を示しました。

採 算

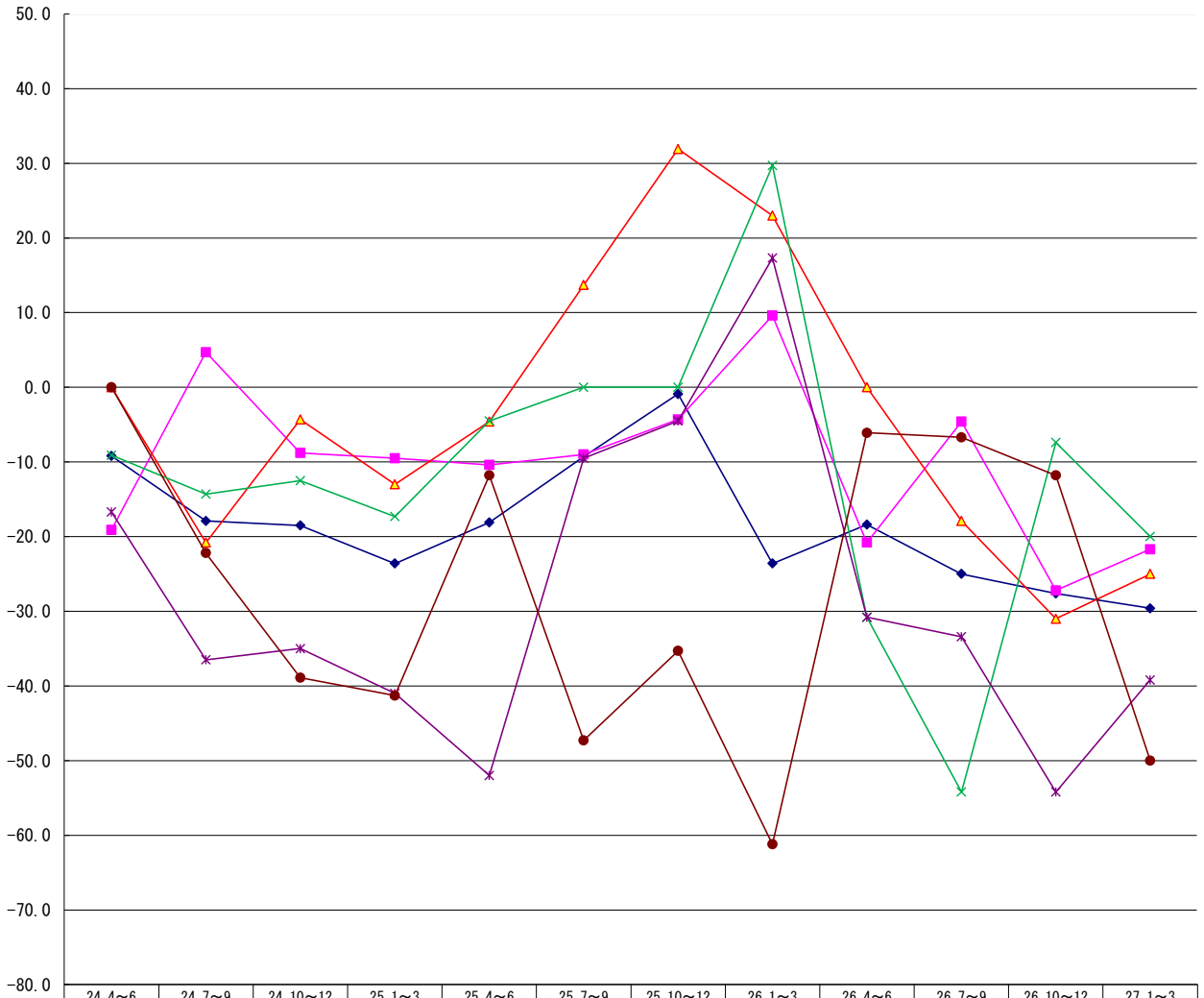
前年比で「好転企業」6.3%、「悪化企業」37.5%、  
D・I値△49.9と前年同期から16.8ポイントの好転傾  
向を示しました。

来期見通し

業況D・I値△43.7、売上高D・I値△43.7、資金  
繰りD・I値△31.2と、前年同期と比べ業況は悪化、売上  
高は横ばい、資金繰りは好転傾向を示しています。

## 業況（前年同期比）

◆ 全業種   
 ■ 製造業   
 ▲ 建設業   
 × 卸売業   
 ✖ 小売業   
 ● サービス業



◆ 全業種	-9.2	-17.9	-18.5	-23.6	-18.1	-9.3	-0.9	-23.6	-18.4	-25.0	-27.6	-29.6
■ 製造業	-19.1	4.7	-8.8	-9.5	-10.4	-9.0	-4.3	9.6	-20.8	-4.6	-27.2	-21.7
▲ 建設業	0.0	-20.8	-4.3	-13.0	-4.6	13.7	31.9	23.0	0.0	-17.9	-31.0	-25.0
× 卸売業	-9.1	-14.3	-12.5	-17.3	-4.5	0.0	0.0	29.7	-30.8	-54.2	-7.4	-20.0
✖ 小売業	-16.7	-36.5	-35.0	-41.0	-52.0	-9.5	-4.5	17.3	-30.8	-33.4	-54.2	-39.2
● サービス業	0.0	-22.2	-38.9	-41.3	-11.8	-47.3	-35.3	-61.2	-6.1	-6.7	-11.8	-50.0

## 業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	同業者間の競合	人 件 費 増	人 材 不 足
建 設 業	人 材 不 足	諸 経 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少	人 件 費 増
卸 売 業	同業者間の競合	得 意 先 減 少	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増
小 売 業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増
サービス業	諸 経 費 増	人 件 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少	人 材 不 足
全業種 115 社	諸 経 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少	人 材 不 足	人 件 費 増

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

全業種を前年同期と比較すると、全く同じ結果となりました。

業種別の前年同期比では、建設業で「人件費増」が3位から5位へ、卸売業の3位「諸経費増」と4位「人材不足」、サービス業の3位「得意先減少」と4位「同業者間の競合」が入れ替わり、小売業が5位が「売掛金回収難」から「人件費増」と変わり、製造業は2位「同業者間の競合」と3位「得意先減少」が変わりましたが数値自体は同数であり、それ以外は前年同様の結果となりました。

全体をとおして「諸経費増」、「同業者間の競合」、「得意先減少」が共通している問題点であると見受けられます。

### ※その他及び具体的な業界の問題点の記載事項

- (製造) ○売上減少、原材料の高騰、価格転嫁できず (印刷)  
○物価上昇による値上げ交渉 (建設用金属製品)

- (建設) ○若手技術者の減少 (建築)  
○高齢化 (建築・土木)  
○工事減少 (建築)  
○若手の育成 (電気設備工事)  
○職人不足 (板金)

- (卸売) ○目立った新商材の開発、普及がなく市場が停滞し他素材の浸食が目につく (鉄鋼)  
○物流コスト増 (業務用食品)  
○TPP どうなっていくか (米穀)  
○円安による影響から仕入価格が高騰 (製材)  
○お客様の仕事が減少する可能性がある (塗料)  
○小売店も少なくなりましたが、仕入先減少でやりづらくなった (玩具)  
○人手確保と人材育成 (肥料)

- (小売) ○業界の基本をもういちど勉強 (眼鏡)

- 同業者間の競合、消費税の関係等が影響で販売利益などが非常に悪い（農機）
- 後継者不在で事業継続困難の店が増加（生花）
- 1・2月の大雪の影響で売上大幅減少（水産）

（サービス）○料金値上げが難しい（ホテル）

### ※消費税増税の影響について

※重複回答

（製造）○売上減少につながる（印刷）

○厳しい（建設用金属製品）

（建設）○反動が大きく春のスタートが非常に悪い（板金）

○材料の高騰（一般土木）

（卸売）○この3月末決算は増税前の駆け込み需要の反動で大幅な減益、減収となった（鉄鋼）

○売上減少（製材）

○昨年11月頃より売上高減少。デフレは脱却していない（作業服）

○昨年同時期は売上増の影響があったが、今はあまり感じない（塗料）

○駆け込み需要の反動による今年の売上見通しの厳しさ（肥料）

（小売）○昨年8～12月は増税の影響あり。お客様は買い物のプロ。（眼鏡）

○諸経費は増えてるが、客数売り上げは伸び悩みがある（生花）

（サービス）○増税分の全てを転嫁できてるわけではない分、利益減少（ホテル）

## 業 況

製造業 ⇒ 好転（農産品加工製造、一般機械、建設用金属製品、）

悪化（農業機械、石灰製品、ブロック製造、木製品）

建設業 ⇒ 好転（特になし）※悪化も同数あるため傾向は無し

悪化（管・土木、土木・建築、板金、塗装、一般土木）

卸売業 ⇒ 好転（玩具、業務用食品、医療・介護用品、建築金物）

悪化（鉄鋼、米穀、食品、作業服、家電、鋼材、事務用品、時計）

小売業 ⇒ 好転（食肉、靴、スポーツ）

悪化（衣料全般、米穀、自動車、時計、農機、スーパー、青果）

サービス業 ⇒ 好転（特になし）※悪化も同数あるため傾向は無し

悪化（ホテル、飲食、建物清掃、理容、仕出し、クリーニング）

（※太字アンダーライン表示は重複該当業種）